



FSC

www.fsc.org

100%

適切に管理された
森林資源を産出し
ています

SC C103704



浜松市

みんなで創る、元気な未来。

notebook

浜松市

農林水産ノート

平成 29 年 8 月号

・ 農林水産情報発信WG(ワーキンググループ)
がほぼ毎月配信します

・ ホームページやフェイスブックなど発信した情報
を中心にまとめます

— 今号の目次 —

「浜松・浜名湖地域 食×農楽会」を開催しました

「グリーンレジリエンスサロン 浜松市×三井住友海上」を開催しました

浜松木材組合森林認証グループが井伊谷小学校へ
『直虎ちゃん絵馬（FSC 認証材製）』を寄贈しました

「鹿島木材 第5回大感謝祭」において FSC 森林認証の PR を行いました

西区深萩町・ガーベラ農家 宮木成俊さん

【浜松市農林水産トピックス】

「浜松・浜名湖地域 食×農楽会」を開催しました



「浜松・浜名湖地域 食×農楽会」を7月29日、30日の2日間、開催しました。

こちらのイベントは、浜松・浜名湖地域での食材の魅力を再発見し、農林水産物のブランド力強化や食文化の醸成を図るため、全国的に著名な料理人と地域の料理人の方々のご協力を得て開催したものです。

初日の7月29日は、静岡文化芸術大学にて、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録にご尽力された、同大学元学長の熊倉 功夫氏をお招きし、「和食文化」についてご講演いただきました。また、静岡文化芸術大学と浜松日本語学院の学生より、この地域の「食」や「食文化」について調査・研究した成果を発表していただき、改めて和食文化と地域食材の魅力について感じていただくことができました。

翌日7月30日は、遠鉄ホールをメイン会場として、市内4ヶ所で料理教室・実演を行いました。あのシンガポール・マリーナベイサ



ンズ内にあるレストランのオーナーシェフでやらまいか大使の和久田哲也氏や、老舗料亭の京都・菊乃井の村田吉弘氏、「料理の鉄人」の経歴を持つ脇屋友詞氏など、有名シェフが料理の実演を行うほか、親子向けの料理教室などが行われ、プロの技、プロの味に触れていただける機会となりました。

また、同日午後は会場を静岡文化芸術大学に移し、参加いただいた料理人のほか、浜松市・湖西市の両市長も加わり、この地域の『食と農』の可能性について議論するパネルディスカッション、そして、この地域の料理関係者や生産者なども加わった分科会を開催しました。

いずれも多くのみなさまにご参加いただき、地域の“食と農”の可能性について再認識するとともに、新たな発見もしていただけたのではないかと思います。

ご協力いただきました多くの関係者のみなさま、ありがとうございました。



「グリーンレジリエンスサロン 浜松市×三井住友海上」を開催しました



クリーンウッド社会の実現や天竜材（FSC 認証材）の販路拡大を目的に「グリーンレジリエンスサロン 浜松市×三井住友海上」を開催しました。

グリーンレジリエンスとは、次世代型社会資本整備における新たな社会的概念であり、「自然資本を有効に活用して、防災・減災対策、いわゆる国土強靱化と地方創生につながるビジネス創出を並行的に進めていく事業や活動」のことを指します。浜松市と三井住友海上火災保険(株)は、全国の市町村に先駆けて、「自然資源を活用した産業振興及び都市の強靱化に向けた連携と協力に関する協定（グリーンレジリエンス連携・協力協定）」を平成 28 年 10 月 31 日に締結しました。

イベント当日は、FSC ジャパンによる講演をはじめ、(株)竹中工務店、スターバックス コーヒー ジャパン(株)、(株)ワイズ・ワイズによる事例報告、市内 FSC 取得者（天竜林業研究会鈴木将之会長、(株)フジイチ小峰裕美氏）による取組紹介、意見交換等を行いました。

終了後行われた交流会には、浜松市長も参加し、活発な意見交換が行われました。浜松市では、今後も三井住友海上火災保険(株)と連携し、グリーンレジリエンス活動を進めていくとともに、今回参加いただいた様々な業種のみなさまとの出会いをきっかけに、更なる天竜材の活用を推進していきます。



浜松木材組合森林認証グループが井伊谷小学校へ『直虎ちゃん絵馬 (FSC 認証材製)』を寄贈しました



浜松木材組合森林認証グループが、井伊谷小学校の児童に『直虎ちゃん絵馬』を贈呈するとともに森林講座を行いました。浜松木材組合森林認証グループは、浜松木材商同業協同組合の有志組織で製材・加工業者が参加する組織です。

7月下旬、井伊谷小学校を永田木材(株)・永田琢也取締役と(株)フジセン・伊藤善一代表取締役、伊藤英二取締役の3名が訪問。5年生・6年生を対象に、前半は永田琢也氏が森林を守る間伐の役割や FSC 森林認証を説明し、後半は伊藤英二氏が木材の活用方法に関するワークショップを行いました。

授業のまとめとして、地元の FSC 認証材でつくられている『直虎ちゃん絵馬』を子どもたちに贈呈し、願い事を書いてもらいました。また、この絵馬の一部はその後龍潭寺に奉納しました。

浜松木材組合森林認証グループでは、今年4月にも森林・林業や FSC 森林認証の PR を兼ねたジャズライブを行うなど、様々な取組をされています。今後も積極的な活動が期待されますね。



「鹿島木材 第5回大感謝祭」において FSC 森林認証の PR を行いました



7月29日(土)に開催された「鹿島木材 第5回大感謝祭」において、FSC 森林認証のPRを目的に、ポスター・パネル展示やパンフレットの配布等を行いました。

浜北区中瀬にある鹿島木材さんの集成材事業部で行われたこちらのイベントは、木工工作やオリジナル家具づくり、木工雑貨の販売や和太鼓演奏のほか住まいの相談など、地域の方が地元の木材に親しんでいただけるようにと毎年開催されているものです。

浜松市がPRを行なったのは休憩所の一角です。FSC 森林認証制度や浜松市における森林資源、天竜材のことなどについてご来場いただいたみなさんにご説明させていただきました。当日は天候にも恵まれ、多くの方に御覧いただくことができました。

浜松市は、市町村別のFSC 森林認証取得面積が日本一であり、FSCの先進都市ですが、市民のみなさまのFSCに対する認知度はまだまだ低いのが現状です。

今後も浜松市では、様々な場所でFSC 森林認証のPRや本市の取組を紹介していきます。



西区深萩町・ガーベラ農家 宮木成俊さん

花き生産の盛んな浜松市ですが、中でもガーベラは日本一の生産量を誇り、花の形、色ともにバラエティに富んだ多くの品種が栽培されています。

本市にガーベラが導入されたのは比較的新しく、昭和 43 年頃に温暖な気候を利用して西区庄内・伊佐見地区で栽培されたのが始まりです。

当初は花卉の弱さなど品種的な欠点や株枯れの発生などで生産が安定しませんでした。昭和 57 年頃になると種苗会社から苗が本格的に供給されるようになり、生産者たちの意欲的な取り組みによって生産量は大きく増加。平成 10 年度には PC ガーベラ販売部会が天皇杯を受賞するなど、トップブランドのガーベラ産地として成長してきました。

年間を通じて生産される豊富な種類のガーベラは、首都圏や関西圏をはじめ全国に流通しています。

今年度より、とびあ浜松農業協同組合 浜松 PC ガーベラ部会長を務める宮木成俊さんにお話を伺いました。



■ 日本一の生産量を誇る、浜松のガーベラ

ガーベラ生産の盛んな浜松市の特徴は、日照量が大変豊富なことです。最近ではソーラー発電なども盛んなように、浜松の日照量の多さは全国でも突出していて、花の生産に非常に適した土地です。天気が良いと病気が出にくく、花たちは元気に育ちます。

また浜松のガーベラの特徴は、バリエーションに富み、色とりどりのガーベラを楽しんでいただけることです。これは産地として以前から戦略的に取り組んできたもので、部会の中でもルールを設けて一体的に取り組んできました。



私が就農した頃はちょうどガーベラが注目され、人気が高まっていた頃でした。現在浜松市のガーベラ生産は全国シェア日本一となっていて、全国にお届けしています。ガーベラ農家は若い世代が多いのも特徴で、後継者も育ってきています。浜松 PC ガーベラの平均年齢は 41 歳と若く、当時から今うまく世代交代をしていると感じています。



■浜松のガーベラ出荷の原動力となった「ガーベラパッキングセンター」

浜松のガーベラの出荷先は、東京都内や関西圏を中心に地元にも多く流通しています。安定した品質と生産量について、市場からも高い評価をいただいています。

浜松のガーベラが流通を拡大してきた原動力のひとつが、平成 5 年から本格稼働をはじめた「ガーベラパッキングセンター」です。どんな花でもそうですが花の出荷には、手間のかかる調整作業が必要です。特にガーベラでは花 1 本ずつにキャップをかける必要があり労力のかかる作業ですが、このキャップかけと選花を行う機械を地元の機械メーカーと共同開発し、導入したのがパッキングセンターです。出荷調整に関する作業を自動化し、工程を分業化することができるようになったことで、効率的な出荷体制が確立されました。またその結果、生産に集中できるようになったことで各農家の規模拡大にもつながってきました。



■消費拡大へ向けた、積極的な取り組み

安定した品質の確保や出荷体制を整えるほか、部会では毎年2月のフラワーバレンタイン、フラワーウォークなどをはじめとした、イベントの実施にも積極的に取り組んでいます。また異業種との交流ということで、市内の企業さんの職場にガーベラの一輪差しを置いてもらうなど、身近に花のある暮らしの提案をさせていただいています。

販売のイベントなどにいさせてもらおうと、通りかかりに「あ！ガーベラ！」と駆け寄ってくれる方がたくさんいらっしゃいます。そんな姿を見ると嬉しくてたまらなくて、種類豊富なガーベラを紹介したパンフレットなどを手渡して説明させていただくのですが、こうしたお客さまとの交流もすごく楽しい時間です。笑顔を作ってあげられる花は、やはりいいものだなと感じています。





■後継者としての就農、花農家としての想い

私が就農したのは17年前になります。大学の頃は電気工学を専攻していましたが、大学を卒業し、長男だった自分が父の経営する農園の後継者として就農をしました。当時は家業を継ごうという意識はそれほどありませんでしたが、自分自身で経営をしていける農業に魅力を感じて就農し、今に至ります。生産には苦労もありますが日々楽しみをもって取り組んでいます。なぜこうなのかと何かと理屈っぽく考える部分など、電気工学を専攻していたことが役に立っているのかなと感じる部分もありますね。

これまで自分が花の生産に携わってきた中で印象的だったのは、東北の震災時にテレビから流れていたインタビューを見たときでした。被災された街の中、残された遺族の方が「花を添えることもできなくて…」と話されているのを見て、思わず涙が流れました。今すぐにでもこのガーベラを届けてあげられれば…。こうした方にとっても、私たちの仕事はなくてはならないもの。自分自身の仕事の尊さのようなものを感じた瞬間でした。





■暮らしに寄り添うガーベラで、全国に笑顔届けたい

産地として様々なことに取り組んできましたが、ここ数年花が一層身近になってきていると感じています。部会では“花育”という視点で小学生などとの交流も行っていますが、子供たちがガーベラをもらって「嬉しい」と笑顔を見せてくれるのが、私たちにとって一番嬉しく思う場面です。

花というものが特別なものではなくて、いつも一緒に自然にあるもの。私たちの作る色とりどりのガーベラが、暮らしの中でもっともっと身近なものになってくれるといいですね。そのためには、これからも高品質なガーベラをしっかりと生産し、全国に笑顔を届けていければと思っています。



ホームページでもご紹介しています。

「西区深萩町・ガーベラ農家 宮木成俊さん」

検索は、

【浜松市農林水産トピックス】

浜松発！果樹紀行（直虎ちゃんが行く）（6月10日、7月3日）

浜松市農業振興協議会果樹振興部は、浜松産果樹のPRのため、奥浜名湖田園空間博物館総合案内所にて抽選会を開催しました。

応募者を対象に直虎ちゃん自らが抽選を行い、当選者には後日、浜松産のピオーネ、ブルーベリーが贈られます。また、来場者の方には、ブルーベリーやミケ日みかんジュースが配布されました。



浜松茶農協新茶贈呈（6月13日）

浜松茶農業協同組合は、今年採れた新茶を高齢者福祉施設に寄贈しました。入居者の方々に、新茶を楽しんでいただくために実施したもので、中・西・北・浜北区で収穫した新茶40kgが贈られました。寄贈は今回20回目で、長年に亘るご厚意に感謝し、市長から感謝状が贈呈され、鈴木組合長からは、今後も地元で消費拡大できるよう努力していきたいとの抱負が述べられました。



ヤギの除草実験開始（ヤギのウェルカム・セレモニー）（6月23日）

草刈機や除草剤に代わる雑草管理手法として、ヤギの除草能力や費用対効果、潜在的需要などを検証するため、7月3日までの間、北区引佐町のいなさ金指農園の空き区画において、ヤギ放牧による除草実験を行いました。開始日の23日にはウェルカムセレモニーが開かれ、地元幼稚園の園児がヤギと触れ合いました。

実験協力：NPO法人 ソラノワ（島田市）



第1回浜松地域林業成長産業化地域構想推進会議開催（6月29日）

本年4月に、本地域が林業成長産業化地域に指定されたことを受け、事業のキックオフとなる第1回目の推進会議を開催し、参画事業者ごとの5年間の事業計画や今後の事業の推進体制について確認しました。

本会議は四半期毎に開催し、事業の進捗管理や事業計画の策定等を行い、5年後の地域構想実現に向けて事業を推進していきます。



三方原じゃがいもを使った料理教室（7月19日）

浜松市認定農業者協会北支部は、会員相互の交流や地域農業の振興、食育の推進等を目的として、女性を対象とした料理教室を開催しました。講師として食育ボランティア団体「オリーブの会」の小野氏他3名をお呼びし、約20名の参加者は、じゃがいもを中心に地元野菜を使ったミネストローネやピザ、ジャガタマの温サラダ、カルピスゼリーを作り、地元野菜を堪能しました。



市有林（FSC 認証林）の立木販売について（7月27日）

市有財産の有効活用の一環として、24か所約300haのFSC認証を取得している市有林において、森林経営を始めます。

第1弾として、峰ノ沢市有林（龍山）及び施知山市有林（引佐）の立木販売を行います。

立木販売を中心とした森林経営を通じて、市有林における森林整備の推進、林業・木材産業の振興などに繋がってまいります。



第3回農業委員会と認定農業者協議会の役員情報交換会（7月28日）

農業委員会と認定農業者協議会の両組織間の情報共有を図るため、情報交換会が行われました。情報共有の必要性は両組織の役員とも認識しており、より地域に密着した情報共有の機会となるよう、今後は、地区調査会（市内21）の単位で必要に応じた情報交換を試みる予定です。



Next Generation Next Vision ワーキング開催（7月31日）

浜松地域林業成長産業化地域構想の重点プロジェクトのひとつである「Next Generation Next Vision ワーキング」を開催しました。

本ワーキングは、10年、20年先の林業・木材産業の発展のために、次代を担う参画事業者の若手17名（20代～30代）によりワーキングチームを結成し、将来の当地域の在り方、進むべき方向性や取り組むべき施策を議論していくものです。本年度はチームで議論を重ねて目指すべき将来ビジョンを作成し、来年度から“若手発”の事業を展開してまいります。



平成29年度夏休み親子せり見学会（8月5日）

8月5日午前5時から、親子12組約40人を対象に今年度第1回目の夏休み親子せり見学会を開催し、取り扱っている品や物流等、市場について幅広くPRすることができました。

参加者の皆さんは早朝の催しにもかかわらず、卸売業者の説明に熱心に耳を傾け、目の前で行われたせりにも見入っていました。8月19日、8月26日に開催を予定しています。

